

を行う必要があるのか。既存農家への支援はどうなるのか。

**A**生産者の減少や収穫量の低下といった厳しい現状を打破し、「いちごの町」を維持・発展させるための新たな挑戦となる。既存農家への苗購入費助成などの支援は今後も継続するが、それだけでは新規作付者が増えず、収穫量不足による単価下落に陥っている。

町が出資する法人を設立することで、いちご栽培技術者の支援をいただきながらコミュニケーションの場を創出し、行政の枠を超えた自由なイベント展開などを通じていちごの魅力を再興する。民間任せにせず、町民みんなの会社として生産者と共に歩む体制を整えることも狙いのひとつとしている。



▲真っ赤に彩る「ぴっぷいちご」

### 空き家の適正管理について

(佐藤(良)委員)

**Q**町内の空き家で除雪がされていないなどの状況があるが、所有者と連絡がとれるようになっていないのか。古い情報であれば再度精査を行うべきと考える。

**A**管理が行き届いていない場合は基本的に所有者に連絡し、対応をお願いしている。連絡先の情報が古くなっていく状況もあるので再度確認していく。

### 町道の街路樹について

(谷口委員)

**Q**冬場の除雪や景観、通学路の安全を考えれば、植樹樹の穴埋め補修ではなく全て撤去すべきではないか。

**A**撤去を望む声は多いが、景観維持を求める意見もある。まずは危険箇所の対応を優先し、住民の意見を聞きながら丁寧に進めていく。

### 住宅リフォーム補助事業の予算と運用

(遠藤委員)

**Q**希望者が多く抽選になっている住宅リフォーム補助について、移住・定住を促進するため

にも予算を増額できないか。

**A**町独自の事業として非常に人気があるが、全希望者を受け入れると町財政の大きな負担となるため、現在は抽選制としている。財源に限りはあるが、町としていつまでも住み続けてもらえるよう、バランスを考慮しながら継続していく。

### ドクターヘリ・ドクターカーの運用状況

(遠藤委員)

**Q**ドクターヘリの出動件数が減少傾向にある理由と、ドクターカーの活用状況はどうか。

**A**運航開始から15年経過していく中で、症状によっては「現場に医師が行く」ことより「早く病院に着く」ことを優先する判断が平準化されたため、件数は落ち着いている。天候不良時や多数の傷病者がいる際はドクターカーも併用し、活用していきたい。

### 住宅用火災警報器の交換と設置場所について

(遠藤委員)

**Q**設置から10年が経過する警報器の交換目安や、家族構成の変化(寝室の移動など)に伴う適切な設置場所の指導をしてはどうか。

**A**設置から「10年」を目安に本

体ごと交換し、誰がどこで就寝しているかを最優先に設置場所を見直してほしい。就寝中の逃げ遅れを防ぐため、寝室や階段への設置が義務付けられているが、家族構成の変化により寝室を移動した場合は、警報器も併せて移設や増設を検討することを推奨する。

### 中央プールの暑さ対策の状況は

(大熊委員)

**Q**近年の猛暑により、中央プールでも暑さ対策が必要になっていくと思うが、どのような対策を行っているのか。

**A**網戸を設置し、クローズの時間帯には防犯対策を講じた上で窓を開け、網戸をした状態で夜から朝にかけて暖かい空気を抜く対策をしている。日中暑くて営業ができない日はなかった。



▲町民水泳教室

## 学校給食事業について

(八巻委員)

**Q** 現在、学校給食用に農協からお米の贈呈を受けているが、新年度は給食費を無償とすることや米価高騰の影響により、同様の動きになるのか。また、地元野菜等を寄付していただける方の掘り起こしも行ってはどうか。

**A** 給食費は国の支援額と現状の金額の差を町が補填する。給食の質は落とさないように給食費をどう設定するかが課題となる。現在も地元の農家から野菜をいただくことがあるが、まとまった数量が必要となるため、支援をお願いするのは難しいと考える。



▲比布産とうもろこしの学校給食

## ▽総括質疑

### 教育環境の整備と

まちづくり (大熊委員)

**Q** 比布町はこれまで補助金や無償化だけでなく、町独自の教員採用や「学校法人田中学園」との連携強化など、教育の「質」を高める先進的な取り組みを行っている。こうした教育環境の強化が、町の未来やまちづくりにどのような影響を与えると捉えているか。

**A** 本町では、情熱ある教育長のリーダーシップにより、管内に先駆けて義務教育学校（比布中央学校）を設置できたことが大きい。今後は「公立義務教育学校の名門」や「世界一の学校」を目指し、卒業生が世界へ羽ばたいても、一生町を応援してくれる「最大の関係人口」になると信じている。

ゼロカーボンシティと  
太陽光発電規制を (遠藤委員)

**Q** 農地や自然を守るため、太陽光発電を規制する条例を作る考えはないか。全国では、小規模に分割して申請する悪質な業者の手口や、住民説明会を軽視す

る事例が報道されている。すでに全国の多くの自治体で規制条例が定められているが、比布町の今後の姿勢を問いたい。

**A** 新しく策定した「地球温暖化対策推進実行計画」において、「町民の理解が得られず、町の活性化に還元されない取り組みは推進しない」と明記した。現時点で条例化は検討中だが、この計画をもって「町としては歓迎しない」という態度を明確にしており、適切に対応していく。

高齢者・障がい者支援と社会福祉協議会の役割 (佐藤(良)委員)

**Q** 令和8年度から事務局長を迎え「新生社会福祉協議会」がスタートするが、町長が新体制に期待する具体的な役割は何か。また、障がい者に対する理解啓発や権利擁護について、どのような具体的なイメージを持っているのか。

**A** 社協には、行政を補完するだけでなく、行政では手が届かないきめ細かな対応や、困りごとの「最初の相談窓口」になることを期待している。障がい者支援については、イベントでの車椅子体験などのほか、過去に町で開催された障がい者スキー大

会のような機会を大切にしたい。



▲イベントでの「車椅子体験」

連携中枢都市圏構想の  
活用と地域課題 (植西委員)

**Q** 旭川市を中心とした「連携中枢都市圏構想」をフル活用し、近隣自治体と公共施設や施策を共有することで、これらの課題を解決し住民の幸福度を上げられないか。

**A** 全ての行政機能を自前で揃える「フルセット行政」は限界に来ており、スポーツ施設の相互利用や、消防指令設備の旭川市との共同整備など、広域連携を強化している。近隣で連携して不足を補い合う仕組み作りは不可欠だと考えている。